

第4回 北川流域委員会 議事骨子

平成20年1月29日（火）「小浜市働く婦人の家」において第4回北川流域委員会が開催されました。

議事においては、河川管理者より「河川環境の現状と課題」について説明がなされました。

また、北川水系河川整備基本方針策定の進捗状況について、河川管理者より社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会での審議状況の報告がなされました。

議 事

河川環境の現状と課題

審議結果

審議結果については、つぎのとおりです。

【河川環境の現状と課題】

北川の環境基準類型の指定状況や水質の現状、生息する動植物の現状、魚道の設置など河川環境に配慮した取り組みの実施状況、ならびに中下流部における河川環境に関する課題などについて河川管理者より説明がなされました。

委員からの主な発言

河川の水質は天候などによって大きく変動する。平常時の調査結果だけでなく、異常時の発生頻度の確認や、異常時を含めた総合的な評価をすべきではないか。動植物の生息状況を示したマップを作成してほしい。

重要種については遺伝的多様性の調査を実施するなど、確認された種の危機状況を確認し、その上で保全していくことを検討してほしい。

重要種や重要な地域については『福井県のすぐれた自然』における自然特性も踏まえた整理もしてほしい。

動植物については普通種も含めて確認された種の河川環境への依存状況をまとめることにより、多様な生物を保全するために重要な種や地域などを把握し、その結果を踏まえ、横断工作物の評価などを行うべきである。また、そういう視点で河川水辺の国勢調査のデータを活用してほしい。

河川環境を守るためにも、瀬切れが起こらないよう規定流量を確保する方策を考えるべきではないか。

底生生物を対象にした魚道についてはまだまだ研究や調査の余地があるので、今後議論していく必要がある。

北川水系の河川工作物について、施設の管理者間での環境整備など一元化を目指した仕組みづくりを河川整備計画に盛り込んでいくことを考えてはどうか。

みお筋の固定化などを考える上で、川幅、縦断勾配、掃流力の変化について確認できるデータを提示してほしい。

河川工事の実施に際しては、重要種などの産卵や孵化の時期に配慮した計画を立ててほしい。

「シラウオ・シロウオの産卵場所」「アユの産卵場所」を確認した根拠を提示してほしい。

『北川の河川水辺の国勢調査結果』（参考資料 - 2）の中の文献調査について、確認した文献名を提示してほしい。

河川水質の新しい指標“豊かな生態系の確保”のランク付けの根拠を示してほしい。

外来種であるタイリクバラタナゴの侵入により他のタナゴ類が絶滅した事例がある。横断工作物による分断によって外来種の遡上が止められていることも考えられるので、北川本川及び支川におけるタイリクバラタナゴと在来種であるアブラボテ、ヤリタナゴの生息地に関するデータを提示してほしい。

現時点で貴重種等すべての遺伝子解析を行い、30年先まですべてのことを見通してというのは今の科学では難しい。すべてを整備計画に盛り込むのではなく、例えば計画段階で調査・解析を行い、順次工事を行う整備計画を立てればよいと思う。

報 告

社会資本整備審議会河川分科会 河川整備基本方針検討小委員会の審議状況